

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

化粧師 (けわいし)

2002 (平成14) 年2月16日鑑賞

Data

監督: 田中光敏

出演: 椎名桔平/菅野美穂/池脇千鶴

👁️👁️ みどころ

「化粧師」、これを「けわいし」と呼ぶ。椎名桔平扮する小三馬が、「化粧」を通じてそれぞれの女たちの人生に大きな影響を…。美しい映像と納得できるストーリー。間違いなく2002年の日本映画の傑作の1つだ。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<大正時代のメイクアップ・アーティスト>

この映画のタイトルは化粧師—これを「けわいし」と呼ぶ。今風に言えば、メイクアップ・アーティストのこと。

時代は大正時代のはじめ。「原始、女は太陽であった」の青鞥の発刊や女優の出現など、新しい時代、女性解放の芽生えを感じさせる時代。そして舞台は東京の下町。

主人公の化粧師は、椎名桔平演じる小三馬（こさんば）。彼は時代のトップをいく化粧師であり、今風に言えばカリスマ美容師。上流階級の奥様や女優たちそしてプロの芸者たちの人気の的だ。しかしその職業の社会的認知度は今ひとつ。小三馬を慕い、弟子にしてくれと頼む、小三馬の隣の天プラ屋の1人娘青野純江（菅野美穂）の父親（田中邦衛）には、全然その仕事を認めてもらえない。

<オンナの生き方とこれを変える化粧の力>

この映画は予告編を数回見たが、「もっと美しく、もっと輝きたい、これがいつの世にも変わらぬ女性のあくなき願望、そしてこの女たちの夢をかなえ、勇気を与えてくれるのは化粧師の小三馬」という売りこみだから、どういうストーリーかさっぱりわからなかった。しかし……。映画が始まると、次のような女優陣の「化粧」をめぐるの大展開となる。

すなわち、

① まずは小三馬を慕い、弟子にしてくれと頼む小三馬の隣の天プラ屋の1人娘青野純江（菅野美穂）。彼女は、後述の、住みこみ奉公の時子を応援する小三馬の姿を見る中で、自分の小三馬へのあこがれを捨てて、結局見合い結婚を決意する。

② そして、これからは女性の時代だと信じ、女優を目指す若い女性にエールを送っている三津森呉服店の女将の三津森鶴子を演じるいしだあゆみ。彼女は化粧師の小三馬の化粧によって自分に自信をもつことができている。

③ 続いて、芸妓の飛行機を演ずるのが小林幸子。彼女は小三馬に化粧してもらおうと、不思議にいい客がつくため、小三馬を大のひいきにしている。

④ そして、今をときめく若手NO1女優の柴咲コウ。彼女は女優志願だが売れなくて悩み、性格もいびつな中津小夜を演ずる。彼女は小三馬に化粧してもらえば女優の試験に合格できるかも知れないと思い、化粧を頼みこむ。しかし小三馬は「20円もってきたら化粧してやる」（一般客は1円）と言って、事実上これを拒否。柴咲は一念発起して20円をためこみ、小三馬に化粧してもらおう。小三馬はそこで、「しょせん化粧は外見を整えるもの。人間の中味を変えなければ・・・」と説教をたれるが、これが本当に決まっており、説得力をもっている。

⑤ 圧巻は、口のきけない息子光夫をもち、貧乏暮らしを夫（岩城滉一）にあたる脇本藤子を演じる個性派の名優岸本加世子。彼女は息子が小三馬になつくの心をよく思っていなかったが、息子に連れられてムリヤリ小三馬に化粧してもらおうことになる。するとそれによって全く違うもう1人のやさしい女が自分の中に存在していたことに気づき、やさしい言葉を息子にかけ、また夫にも率直に謝罪の言葉を述べる。するとそれまで口のきけなかった息子が突然「母ちゃん・・・」「父ちゃん・・・」としゃべりはじめるという奇跡がおこる。化粧がこれほど女の人間性そのものにインパクトを与えるということをさまざまと説得力をもってみせつけてくれる場面で、ついホロリとしてしまう。

⑥ そして映画の全般を通じて菅野美穂以上の主役的役割を果たすのは池脇千鶴だ。彼女は今、NHKの朝ドラ「ほんまもん」で大阪の料理人を演じて人気を博している。この映画では、彼女は、火災で焼け出され天涯孤独の身で、三津森鶴子（いしだあゆみ）の呉服屋で住み込み奉公をしている沼田時子を演じている。これがけなげで、可愛くて、泣かせるいい役。先輩のいじわるのオバサンに泣かされ、いじめられながらも、女将のいしだあゆみの応援もあって、女でも文字を読みたい、小さい子供達に本を読んであげることによって子供達に夢をもたせてあげたい、と一生懸命努力する。小三馬はこんな時子を応援する。本当にいい役だ。

その他、女たちの「化粧」を契機とする人間模様が、本当に自然にかつ説得力をもって描かれている。

<意外な展開—小三馬の秘密>

そして物語は意外な展開を見せる。すなわち、時子をめぐり一つの警察ザタ事件が起こる。その中で、小三馬がなぜ化粧師を目指したかが明らかとなり、小三馬の身体上の秘密も菅野美穂の口から叫ばれる。思いもかけないストーリー展開だが、なるほどと十分納得させられるし、どんどんひきずりこまれる雰囲気をもっている。

本作品は本当に一級品の日本映画だと思う。ストーリーもしっかりしているし、登場人物の1人1人の女性そしてそれを演ずる女優がみんな粒ぞろいだ。特に岸本加世子の演技はすごい。

<邦画の最高傑作>

しかし何と言ってもこの作品を支えるのは主役の椎名桔平。セリフは極端に少ない。これは彼のこの作品における身の上にも理由がある。それはそれとしても、無口だが腕のいい、職人肌の「化粧師」の役に入り切ったすばらしい演技だ。椎名桔平ファンの女性はたくさんいるが、私もこの作品で本当に椎名桔平に惚れこんだ感じ。男が見てもすばらしい男だと思う。

東映の50周年記念「千年の恋〜ひかる源氏物語」はたいした作品ではなかったが、この「化粧師」は超おすすめ。2002年の日本映画の最高作品ではないかと思う。

ただ隣の映画館で人気作品「オーシャンズ11」を上映していたため、こちらは列をなしているのに対し、「化粧師」の上映館はガラガラ。さびしい思いがする。日本人にはもっとこの映画を観てもらいたい、そして感じてもらいたい、と思う。本当におすすめ作品です。

2002（平成14）年2月記